

パワーリベラメンテ導入記(3)
—デジタル入力系のタップへの導入—

1. 始めに

前報 (2)の PC オーディオ入力系に引き続き、その他のデジタル入力系へのタップへのパワーリベラメンテの導入を検討します。

2. パワーリベラメンテの効果の試聴方法

前報(1)と同様、チクマのタップと業務用アイソレーショントランス (Star Electric 製 Star-Trans F) の間をずっと以前に購入したオーディオグレードの電源ケーブルからパワーリベラメンテに取り替えて接続します。

試聴対象は、EMT981 による CD 再生と BZT-9000 による BS 録画の再生を行います。

CD 再生

EMT981(44.1KHz)→【CCV-5(98KHz)】→micro iDSD→【DA-3000(44.1KHz)】
→【MYTEK DIGITAL 192-DSD】→{プリ}

BS 録画再生

BZT-9000→【CCV-5(98KHz)】→micro iDSD→【DA-3000(44.1KHz)】→【MYTEK DIGITAL 192-DSD】→{プリ}

ここで電源供給の状況を説明しておきます。

【 】: パワーリベラメンテ接続チクマタップから供給

{ }: 別系統のパワーリベラメンテ接続アナログ入力系チクマタップから供給

なお、EMT981 と CCV-5 には GPS-777 からクロックを供給し、DA-3000 には ABS-7777 からクロックを供給しています。EMT981、BZT-9000、GPS-777、ABS-7777 の機器すべての給電にはパワーリベラメンテは関係していません。micro iDSD は内臓の Li バッテリー電源です。つまり、CCV-5、DA-3000、MYTEK DIGITAL 192-DSD とプリアンプのみにパワーリベラメンテ接続効果が出るはずで

3. パワーリベラメンテの効果の試聴結果

デジタル入力系の EMT981 や BZT-9000 などのトランスポートの給電にはパワーリベラメンテは関係しておらず、CCV-5 と DA-3000 と MYTEK DIGITAL 192-DSD のみにパワーリベラメンテが関係しているにも関わらず、以前とは随分違った印象になりました。

CDの再生では、EMT981の個性の芳醇な音に分離や切れ込みが増し、CDとは思えないほど透明度が上がってきました。また、同じ曲の異なった盤の間の音質の違いがより明確に分かるようになりました。

BS録画の再生では、楽器の質感が正確に出ますので、地味な室内楽でも、コンサートで聴いているような感じを受けます。大編成ものでは音の分離と溶け合いのバランスが良いので、同じ曲でも演奏の違いがはっきりわかります。例えば、マーラーの1番は、ラトル／ベリリンフィル、広上淳一／京都市響、セガン／フィラデルフィアの録画がありますが、指揮者の解釈の違い、オケの技量の違いやホールの音響の違いがこれまで以上に明瞭に分かります。

4. まとめ

トランスポートの給電にはパワーリベラメンテは関係しておらず、後段の機器のみにパワーリベラメンテが関係している場合においてもパワーリベラメンテの効果が認められました。トランスポートの給電にもパワーリベラメンテを経由させることが楽しみになってきました。

以上